

# すぐ書ける五行歌

## はじめに

五行歌の最初の入門書『五行歌を始める人のために』を出してから、もう十五年が過ぎました。私が書くと、詩歌の歴史、いままでの詩歌との関係を書くのに力が入り過ぎて、一般の方が書き始めるのに、難しくなり過ぎるかもしれません。そこで、このたびはサンプル作品を中心にわかりやすいものにしたと考えました。

まず、どんな年齢の方も、どんな生き方をされている、どんな立場の方も書くことができるのだということを知っていただきたいと思います。そればかりか、人はかならずその心のなかに名作を持っているというのが私の信条です。

かならずそういうものがありますから、五行歌を書いてそういうものを出して行って頂きたいと思えます。

私にとっては、文学史、世界の文学との比較などが一番おもしろいのですが、それは自分の興味に過ぎません。また、その詳しい理論的、文学論的な展開については、草壁塾の講座、七十四時間分のDVDも作製していますから、この本を読んでさらに興味のある方はそういうものを見て頂ければと思います。

五行歌は一人でも書いていけるものですが、歌会に出て、人とともに語り合いながら勉強していくのは楽しく有益なものです。月刊誌『五行歌』に所属して、多くの人とともに誌面に作品を発表していくのもよい勉強となりましょう。

『五行歌』は四百ページにも達する世界で一番分厚い詩歌の月刊誌で、その内容は濃く、分量として通常の本の三倍あるだけでなく、毎月、これを読むだけでも相当の勉強となります。したがって、材料に事欠くということはありません。

五行歌は、言葉で自己表現するということであって、きわめて易しいとも、最も難しいともいえることです。最高峰の文学、すべてを超えた珠玉の言葉を目指すとなれば、おしゃかさまやキリストとも競争すると宣言しているのと同じですから、それならば易しいとか難しいとかいう次元のものではありません。

「五行歌はだんだん難しくなりますね」と、なかには、私を睨む方もおられますが、難しくなるのは目標が高くなるからです。とすれば、目標は高ければ高いほどいいといえましょう。難しさを超える情熱さえあれば。

『すぐ書ける五行歌』とは、最初に五行歌と接する人の気持ちを考え、私自身が考えたいタイトルでしたが、これを書くのに二年以上の時間がかかりました。『すぐ書ける五行歌』はすぐには書けなかったのです。これは最初の『五行歌を始める人のために』を一週間で書いてしまっ

たのと好対照でした。

今となっては、かえってやさしい入門書を書くことが難しいということですが。書くたびに難しくなりすぎたと思って書き直して、時間がかかってしまったのです。

今後、入門書は他の方々にお任せしたいと私は考えるようになりました。私がりやすく書く立場じゃないといっているではありません。これで三冊の入門書を書いて、同じことを書くのはもうやめにしたと思ったのです。

信念はそう変わるものではありませんから、どうしても同じことを書きます。それが、自分の頭のために非常によくはないのです。人はいつも、毎日、前進しているべきだという私の考えは、とくに脳の健康のためにそう思っています。

このため、この本は私の五行歌入門書の最後の本とします。今後は、ほかの方にお問い合わせする予定で、私は今考えていることをどんどん書いていくつもりです。

それでも、日本でも世界でも、まだ五行歌を知らない人は多く、それらの人々にこの本を通じてお話し合えることを大変嬉しく思っています。

みなさん、ぜひ、どこかでお会いしましょう。

二〇〇八年八月十八日

草壁焰太

# 目次

はじめに 1

## 第一章 サンプルで見る 9

- 1 幼子の歌 10
- 2 大人が書くということ 18
- 3 大人っぽい歌 19
- 4 五行歌のコツ①「長くなりすぎる」 20
- 5 思春期の歌 24
- 6 季節の歌 28
- 7 恋の歌・官能の歌 32
- 8 コーモアの歌 38
- 9 若い母親の歌 41
- 10 五行歌のコツ②「短歌調が抜けない」 43
- 11 親を歌う 48
- 12 孫・幼子の歌 49
- 13 介護の歌 53
- 14 高齢者の歌 55
- 15 五行歌のコツ③「文章のようになる」 60

## 第二章

### 五行歌発想のとき

69

- 12 方言の歌 61
- 13 自分を歌う歌 64

短歌は哀調を選ぶ 70

自由律短歌の問題点 72

——五行歌のコツ④「書けないときは」—— 73

サンプル十五分、ネーミング三時間 79

五行歌運動開始まで 85

——五行歌のコツ⑤「五行目の決め方」—— 87

## 第三章

### 初めて書く人のために

89

1 恐れずに書くこと 90

2 歌の長さ—短い、長い、どちらがいいか 96

日本の短詩の本義 99

3 字足らずは古代の教えだった 104

4 漢詩の読み下しはもう一つの詩歌だった 114

## 第四章

### 五行歌は自然な言葉

121

1 五行歌は言葉の自然呼吸 122

——五行歌のコツ⑥「勉強の仕方」—— 126

2 五行歌五則を改定します 128

第五章

どう推敲するか

——五行歌のコツ⑦「人のものがよく見えて…」—— 135

1 一つの例「こんなに寂しいのは…」 138

——五行歌のコツ⑧「感性教育はできるか」—— 141

2 スーパーE難度への挑戦 149

第六章

歌会に出てみましょう

—— 157

歌は人に見てもらうために書く 158

歌会の進め方 160

よい選者がよい詩歌人を作る 166

文化の世界に正解はない 168

よいところを伸ばす 174

自然な話し合いの中で… 175

五行歌の会について 177

装画／置鮎早智枝  
装丁／しづく